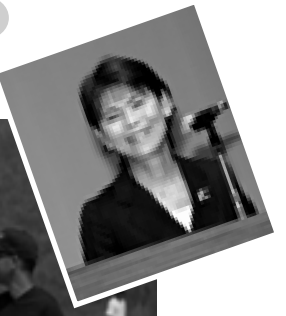


夢に向かって

宇津木妙子講演会・ソフトボール教室



八月五日(土)、夜須マリソールで女子ソフトボール前日本代表監督の宇津木妙子さんを招き講演会が開催されました。宇津木さんは、十四年に高知国体で赤岡町に民泊。選手時代の努力や銀メダルを獲得したシドニー五輪までの道のり、周囲への感謝を「夢と人生」と題して講演。ソフトボールを通じた人生観に観客は熱心に耳を傾けていました。

翌日は、香我美運動広場でオリンピック候補が多数所属する日立&ルネサス高崎女子ソフトボール部のソフトボール教室が行われ、市内外のスポ少や中・高生など約百五十人が参加。あこがれの選手の指導を受けました。香我美中三年の坂本裕太くんは、上野由岐子選手に投球指導を受け「緊張したけど分かりやすかった。九月に最後の大会があるので成果を出したい」と意気込んでいました。

先人を尊ぶ慰霊の盆踊り

新盆訪宅 赤岡町・吉川町



8月14日(月)に赤岡町と吉川町の今年初盆の家々を、子どもを中心とした若杉解放子ども会と若竹会のメンバーが回りました。

各家の庭先で、お盆に海から帰ってくる死者の霊を迎え、慰めるために花がさをかぶった踊り子は足をすって全身をくねらせる「のえくり」と呼ばれる踊りを踊りました。花がさには死者の霊が宿るため、顔を伏せ「みつ・たんば・絵島」の3曲を踊りました。迎える者のない霊の邪気を防ぐために、太刀や手ぬぐいを使った「白刃の太刀踊り」によってなぎはらいました。

この踊りは地域の方と共に大切に伝承し、受け継いでいくために20数年前から毎年お盆に行われており、子どもらの踊りを見ることができます。

くり返さないで 戦争の悲劇

夜須町震洋隊慰霊祭

終戦の翌日、爆発事故で命を落とした百十一人の旧海軍特攻隊「震洋隊」隊員の慰霊祭が八月十六日(水)、事故現場となった夜須町の住吉で行われました。

慰霊祭は、夜須町震洋隊奉賛会(中村昌直会長)が主催で、六十二回忌となる今年には元隊員や遺族、関係者ら約九十人が参列。中村会長が「今日の平和は、戦争で亡くなった方たちの犠牲の上に成り立っている。私たちは戦争を語り継ぎこの平和を守っていく責務がある」とあいさつし、参列者は黙とうをささげ故人の冥福を祈りました。



研修に参加した生徒たちの感想を紹介します

シンガポールへ出発

言葉の壁が不安でしたが、でも、向こうに着いたら日本語を勉強してくれていました。

曾我部佐海(2年生)

バイオニア・セカンダリー・スクールでの生活

学校が大きすぎて、どこに何の教室があるのか分からなかった。

池添 凌(2年生)

全体的に違っていたけど、特に食事回数が多いことにびっくりした。

橋本 佳枝(3年生) 登校の時間と下校の時間がとても早くて驚いた。

小松 滉治(3年生)



一緒に音楽の授業



第10回香我美中学校 シンガポール研修

香我美中学校の2、3年生12人が、8月2日(水)から7日(月)までの6日間シンガポールを訪問しました。国の面積は淡路島とほぼ同じ。人口は約400万人ですが中国系・インド系・マレー系とさまざまな人種が協調し合っています。

平成8年からの国際交流事業がきっかけで、シンガポールのバイオニア・セカンダリースクールとの学校交流が始まりました。

平成12年からは相互交流を行っており、今年の11月にはシンガポールの生徒が香我美中学校を訪れ、ホームステイする予定です。

ホームステイ先で

ホームステイでは、ご飯を手で食べたり、異文化を学ぶことができました。

石原 歩(2年生)

お別れするとき

もっと会話をしたかったなあと思っていました。でも、楽しかったです。

橋本 卓弥(2年生)

せっかく仲良くあったのに、別れるのはとっても寂しかったです。

小松 唯(3年生)



たくさん楽しい思い出を作ってきました!

向こうの友だちとの別れは悲しかったけど、思い出ができて良かった。牛窓 智文(3年生)

マーライオンの前で



バイオニア・セカンダリースクールの朝礼風景

家族と離れて不安になるけど、友だちがいるから気にせず出発できた。

土居 優(3年生) いろいろな不安な気持ちをもって出発したけど、行くからにはしっかりと交流しようと思った。

桑名 翔也(3年生)



お別れの前に記念撮影